

源兵衛川・柿田川湧水

桂川・相模川流域協議会

相模川湘南地域協議会 中門吉松

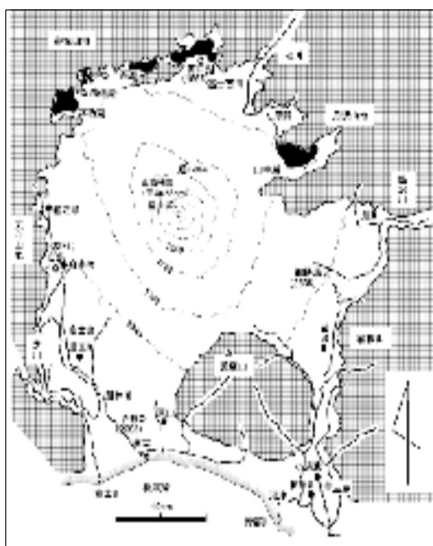
【実施日】平成27年
3月11日(水)

【参加者】28名
会員20名、一般8名

一・実施内容

快晴の朝、寒川駅北口、茅ヶ崎市役所と回って、平塚駅南口を定刻にスタートした。

学習会のスタート前、4年前に発生した東日本大震災で被害に遭われた方の冥福を祈り全員で黙祷を捧げた。



誠観光のマイクロバスで、西湘バイパス・箱根新道経由で目的地に向かった。途中休憩した箱根峠で芦ノ湖を望む。山上は雪雲が覆い肌寒かった。

市街地での三島湧水・柿田川湧水見学(学習会)は、風が少し強かったが、陽射しがあり寒さを感じることなくできた。

三島湧水見学は『NPO法人グランドワーク三島』理事で『源兵衛川を

愛する会』事務局長の越沼様・事務局の山本様に
対応して頂いた。

柿田川湧水見学は『公益財団法人 柿田川みどりのトラスト・柿田川自然保護の会』会長の漆畑信昭様に入念な事前準備をして頂き、執行理事の渡辺様・下川原様・細倉様の3名から柿田川湧水の説明をして頂いた。

多忙中にも関わらず懇切丁寧に対応して頂き、大変有意義な湧水学習会ができました。両会の皆さまに感謝致します。

二・源兵衛川見学

【集合】三島梅花藻の里

【時間】10時〜12時

源兵衛川は市立公園・

楽寿園の中にある小浜池を水源として、中郷温地まで流れる全長1.5kmの農業用水路で整備された美しい水辺空間が守られ保たれている。

昭和30年代中ごろから、上流域での地下水汲み上げによる湧水の減少、生活排水の流入、ゴミの放



置などにより悪化した汚れた源兵衛川を取り戻そうと1990年より地道な保全活動が続けられ、現在の水辺にホタルが飛び交い、子ども達の水遊びが絶えない川が戻ってきている。

案内をして頂いた越沼さんが言われた「オリンピック前のヘドロのない良い川に戻したいと、月に一回、疲れないように20年以上やってみれば良くなる」と地道にやってきた」という言葉が耳に残った。

『グランドワーク三島』の参加団体は、20団体、市民・企業・行政が協働で環境整備をおこなう

「右手にスコップ、左手に缶ビール」の合言葉が良いですね。...

①三島梅花藻の里

②源兵衛川・桜並木

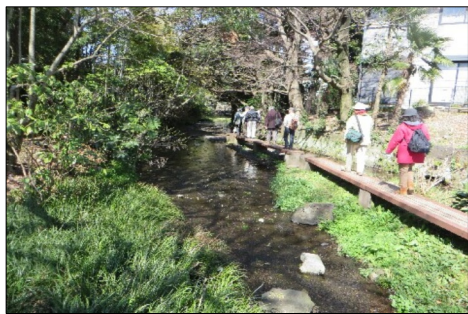


清らかな水が流れ、大人でも川の中に入りたくなってしまう。春になるとホタルの幼虫が這い上がり土の中にもぐってサナギになり、初夏になると多くの成虫が川面に舞うそうです。

＊緑の苑緑地



源兵衛川中流に位置し、水中から湧出するのが見える。橋の欄干は傾斜があり散策する人が寄りかかって休憩できるように心配りされている。カワセミが何度も現れ宝石のようなコバルトブルーの姿を見せてくれた。



＊雷井戸

住宅地の中にあり直径約3mの円形井戸で昔は簡易水道の水源として使われていた。



住宅地の側面に開けられた穴からも湧水が流れ出ている。



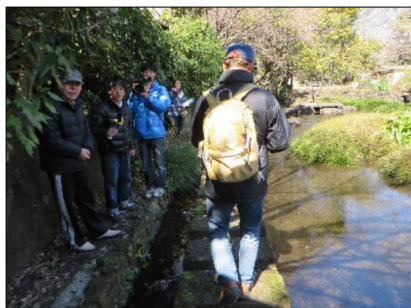
中央水道水源跡もあり、住民の生活との深い関わりがみられる。

＊三島広小路

江戸時代三島の宿場に時を告げていた鐘があり、隣には有名なウナギの桜家もあります。



源兵衛川に架る伊豆箱根鉄道の鉄橋下からは電車を見上げることもできます。撮り鉄の撮影ポイントでもあります。



広瀬付近でTV東京の取材を受けました。

＊小浜池・ほたるの里

源兵衛川の源流小浜池は富士山の噴火の際に流れ出た『三島溶岩流』の溶岩の間から雪解け水が湧出して源兵衛川などに流れ出している。訪れた時は渇水であったが、道路を隔てた店の前の側溝から多量の湧水が川に流れ出ている。



民家の庭先ではホタルの養殖がされていて、幼虫の生態をみる事ができた。

多くの方が三島湧水を愛し、水辺環境を保全する活動が続いていることを学習することができた。

【昼食休憩】

沼津港魚市場でそれぞれが好みの食堂で魚料理を愉しんだ。

三・柿田川湧水見学

【集合】第一展望台

【時間】14時～15時半

＊第1展望台

執行理事の渡辺さんが行程紹介された後、理事の下川原さんから柿田川について説明して頂いた。下川原さんは22年間・毎朝公園の掃除ボランティアをされているそうです。

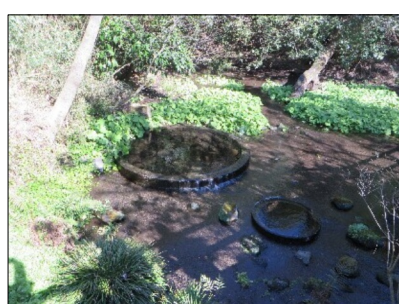


＊第2展望台

眼下に円形の中にブルーの湧水が輝いて見える。ここは紡績工場の水道（井戸）跡で昭和40年代に払い下げられたとのことである。



＊製紙工場水道跡
左岸沿いに木道を歩くと旧製紙工場の水道（井戸）跡に湧き、ここでは秋になると鮎の産卵が見られる貴重な場所とのことである。

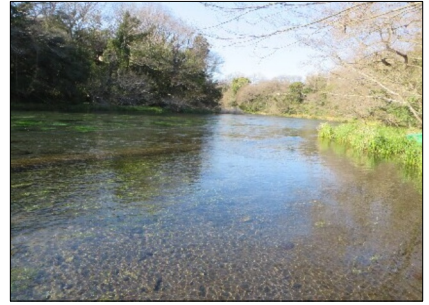


現在の公園場所には製紙工場があり、40年前までは工場からの汚水とヘドロでひどい状態だったが、柿田川みどりのトラストの皆さんが一九七五年六月、10名で柿田川自然保護の会を設立し、活動を開始、署名活動を行い、工場を別の場所に移してもらっている。



会報誌『柿田川』に記載されている漆畑会長の言葉によると「開始した当時は、高度経済成長の余韻が強く残り、無名な柿田川の自然保護を叫ぶと、奇異の目で見られた。職場でも、自然保護は企業

の敵と言われた」とのことである。



会の皆さまの先駆的な活動と絶え間ない努力が、環境庁（現環境省）の「名水百選」文化庁の「天然記念物指定」に繋がり、柿田川湧水群としての自然環境が訪れる私たちの心を豊かにしてくれる。

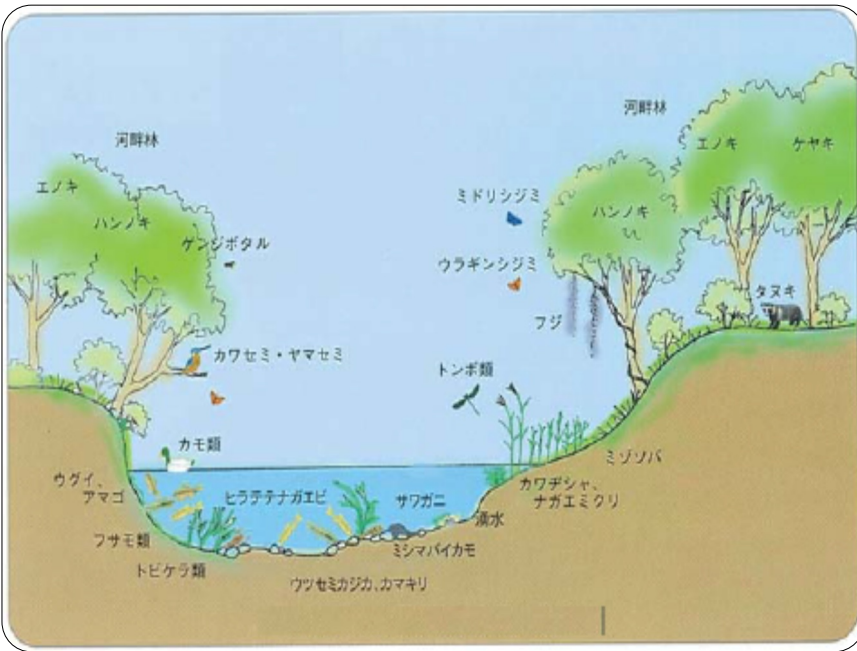
＊柿田川自然観察園

管理している清水小学校で鍵を借り、柵の扉を開錠して河岸に下る。ここでは植物担当の細倉さんが、柿田川特有の生物環境や抱えている課題について詳しく説明され、質問にも丁寧に答えられた。

＊柿田川の生物環境

平成24年3月に策定された『柿田川自然再生計画』によると、柿田川の兩岸は切り立った崖となっており、水際まで河畔林が成立しており、生物の重要な生育・生息場になる。柿田川の水域は水温・水量に変動がなく、年間を通じて安定した豊かな湧水が供給されることから、多様な水生植物が群生し、湧水環境に依存する貴重な生物が生育・生息する。河口から7kmしか離れてないので、魚類・甲殻類などの回遊性の種が多く見られる生物相の特徴を有している。柿田川の有する湧水河川としての特性によ

り、水温が一年中15度程度で安定していることから、動物の生活史に大きな影響を与え、水生昆虫が年間を通じて羽化し、利用する捕食者が季節外れの時期に餌採りをするなど、他河川ではみられないような独特の生態系が形成されている。



近年では、侵略的外来種が急速に分布を拡大して、柿田川の生態系の構造を変化させるという課題がある。



説明される細倉さん

四・学習会のまとめ

①三島グラウンドワーク

クは、市民団体が参加したネットワーク組織となっており、水辺環境の再生から地域再生

へと拡大していることが実感できた。



グラウンドワーク三島事務局

② 柿田川みどりのトラスト・柿田川自然保護の会は、地域住民が柿田川の貴重さを自覚するまで、永年に渡り地道な活動に敬服しました。



雷井戸前で記念写真

帰路は、3月8日に開通した『圏央道・寒川北IC』経由で予定通りに帰着した。（完）